

令和 8 年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程（追検査）

## IV 理 科

### 注 意 事 項

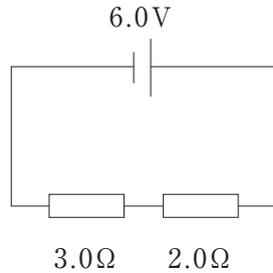
- 1 開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問 8** まであり，1 ページから 14 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 マークシート方式により解答する場合は，選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 5 計算するときは，問題冊子のあいているところを使いなさい。
- 6 終了の合図があったら，すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

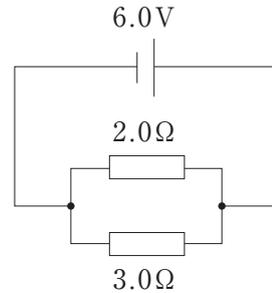
番

問1 次の各問いに答えなさい。

(ア) 電圧が6.0Vの電池と、抵抗の大きさが2.0Ω、3.0Ωの2種類の抵抗器がある。これらをつないで、次の図のような回路Aと回路Bをつくった。回路Aで消費される電力の合計と、回路Bで消費される電力の合計の組み合わせとして最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。



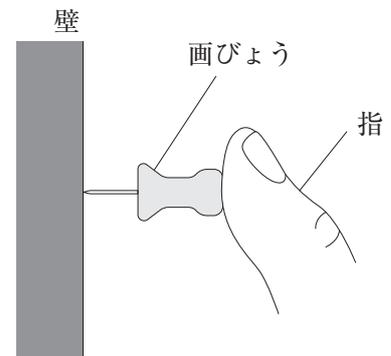
回路A



回路B

- |                |             |                |            |
|----------------|-------------|----------------|------------|
| 1. 回路A : 1.2 W | 回路B : 5.0 W | 2. 回路A : 1.2 W | 回路B : 30 W |
| 3. 回路A : 7.2 W | 回路B : 5.0 W | 4. 回路A : 7.2 W | 回路B : 30 W |

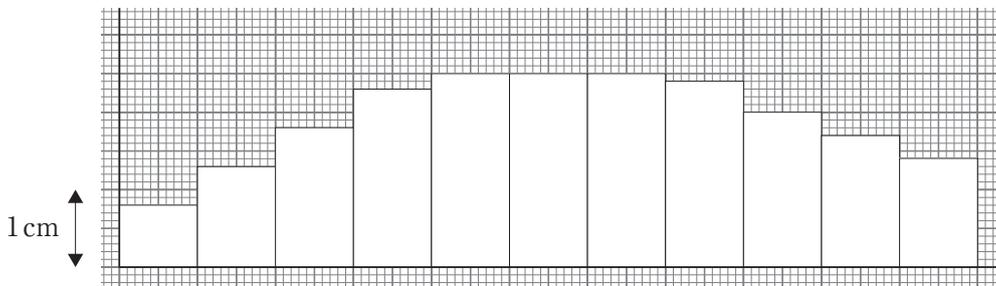
(イ) 右の図のように、画びょうの針を壁に垂直に当て、指で画びょうを軽く押して静止させている。次の□は、このときに画びょうから壁や指にはたらく力と圧力について記したものである。文中の ( X ), ( Y ) にあてはまるものの組み合わせとして最も適するものをあとの1～6の中から一つ選び、その番号を答えなさい。ただし、画びょうにはたらく重力は考えないものとする。



画びょうの針から壁にはたらく力の大きさは、画びょうから指にはたらく力の大きさ ( X )。  
画びょうの針から壁にはたらく圧力の大きさは、画びょうから指にはたらく圧力の大きさ ( Y )。

- |              |           |              |           |
|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 1. X : より大きい | Y : より大きい | 2. X : より大きい | Y : と等しい  |
| 3. X : より大きい | Y : より小さい | 4. X : と等しい  | Y : より大きい |
| 5. X : と等しい  | Y : と等しい  | 6. X : と等しい  | Y : より小さい |

(ウ) 水平面上で台車に力を加えたときの運動を、1秒間に50回打点する記録タイマーと記録テープを用いて記録した。得られたテープから、打点が重なり合って判別できない部分を除外して、記録を処理する基準点を決めた。次の図は、そのテープを基準点から5打点ごとに切り取り、グラフ用紙に左から順に貼り付けたものを示しているが、打点は省略してある。図や台車の運動についての説明として最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。



1. 切り取ったテープそれぞれの長さは、0.2秒間の台車の移動距離を表す。
2. 図から、この台車は30cm以上移動したことがわかる。
3. 図における最後の0.2秒間の台車の平均の速さは、最初の0.2秒間の平均の速さの約1.5倍である。
4. 台車に加わる力の大きさは、台車が加速している区間よりも、減速している区間の方が大きい。

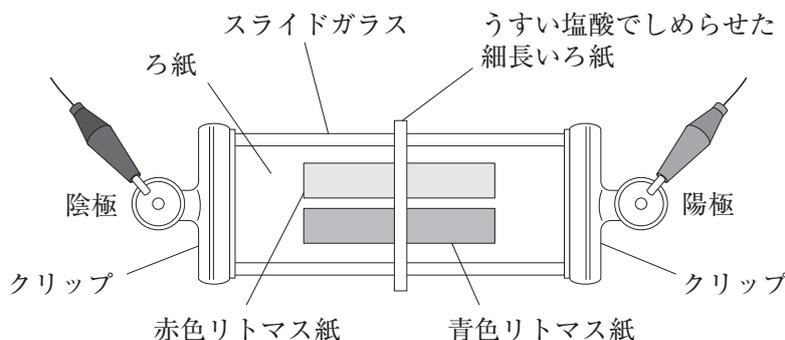
問2 次の各問いに答えなさい。

(ア) 次の  中の a～dのうち、気体の性質や発生方法についての説明の組み合わせとして最も適するものをあとの1～6の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- a 水素は水に溶けにくいいため、水上置換法で集めることができる。
- b アンモニアは水に溶けやすく、水溶液は酸性を示す。
- c 酸素は、二酸化マンガんにうすい過酸化水素水を加えると発生する。
- d 二酸化炭素は、石灰石に水を加えると発生する。

1. aとb
2. aとc
3. aとd
4. bとc
5. bとd
6. cとd

- (イ) 酸性を示すものとなるイオンが何であるかを調べる実験を行った。次の図のように、ろ紙、赤色リトマス紙、青色リトマス紙をそれぞれ硝酸カリウム水溶液でしめらせてスライドガラスの上ののせ、ろ紙を金属製のクリップではさんだ。リトマス紙の中央に、うすい塩酸でしめらせた細長いろ紙を置いて、クリップに電源装置をつないで電圧を加えた。あとの□は、このときのリトマス紙の色の変化についてまとめたものである。文中の(あ)～(え)にあてはまるものの組み合わせとして最も適するものを1～8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

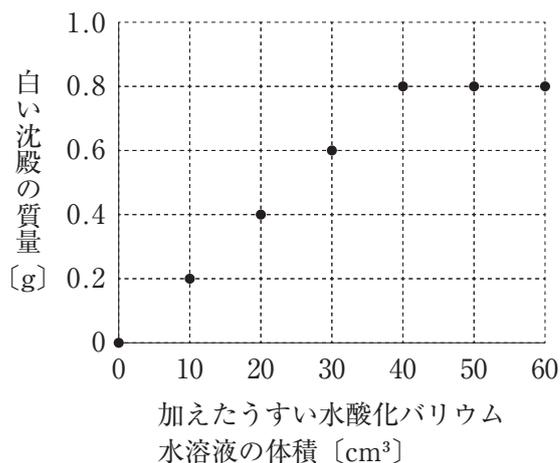


電圧を加えると、(あ)色リトマス紙が(い)色に変化した部分が、(う)極側に広がっていった。この理由は、水溶液中の(え)イオンが(う)極側に移動したためだと考えられる。

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1. あ：赤 い：青 う：陽 え：水素 | 2. あ：赤 い：青 う：陽 え：塩化物 |
| 3. あ：赤 い：青 う：陰 え：水素 | 4. あ：赤 い：青 う：陰 え：塩化物 |
| 5. あ：青 い：赤 う：陽 え：水素 | 6. あ：青 い：赤 う：陽 え：塩化物 |
| 7. あ：青 い：赤 う：陰 え：水素 | 8. あ：青 い：赤 う：陰 え：塩化物 |

- (ウ) 右の図は、ビーカーに入れたうすい硫酸  $20\text{cm}^3$  にうすい水酸化バリウム水溶液を加えていったときの、加えたうすい水酸化バリウム水溶液の体積と生じた白い沈殿の質量の関係を示したものである。

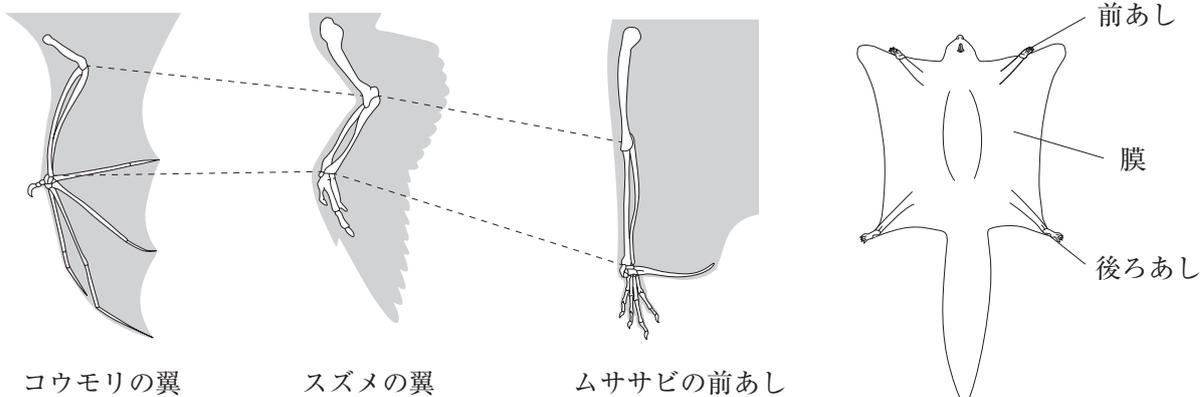
同様の実験を、うすい硫酸の体積を  $40\text{cm}^3$  に変えて行ったとすると、うすい水酸化バリウム水溶液  $60\text{cm}^3$  を加えたときに生じる白い沈殿の質量は何gと考えられるか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。



- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 0.8g | 2. 1.2g | 3. 1.6g | 4. 2.4g |
|---------|---------|---------|---------|



(ウ) 図1はコウモリの翼，スズメの翼，ムササビの前あしの骨格を比較して示したものである。コウモリとスズメは翼をはたかせて空を飛び，ムササビは図2のような前あしと後ろあしの間にある膜を使って，高いところから滑空する。コウモリの翼，スズメの翼，ムササビの前あしが相同器官かどうかを，理由とともに説明したものとして最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び，その番号を答えなさい。



コウモリの翼

スズメの翼

ムササビの前あし

図1

図2

1. コウモリの翼とスズメの翼，ムササビの前あしはいずれも空を飛んだり滑空したりするための器官であるから，これらの器官は相同器官である。
2. コウモリの翼とスズメの翼，ムササビの前あしはいずれも骨格の基本的なつくりが似ており，共通の祖先から進化した器官であると考えられるから，これらの器官は相同器官である。
3. コウモリの翼とスズメの翼は空を飛ぶための器官であるから相同器官だが，ムササビの前あしは滑空するための器官であるから，他の2つと相同器官の関係にない。
4. コウモリの翼とムササビの前あしは同じほ哺乳の器官であるから相同器官だが，スズメの翼は鳥類の器官であるから，他の2つと相同器官の関係にない。

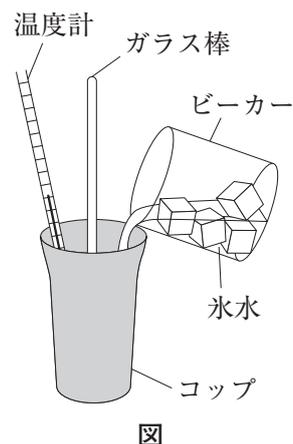
問4 次の各問いに答えなさい。

(ア) 次の□は，台風の進路についての説明である。文中の( X )～( Z )にあてはまるものの組み合わせとして最も適するものをあとの1～8の中から一つ選び，その番号を答えなさい。

夏から秋にかけて，日本列島にはたびたび台風が接近または上陸する。これらの台風は熱帯の海上で発生した熱帯低気圧が発達したものであり，( X ) 高気圧の西側のふちを回るように北上して，上空を吹く( Y )の影響を受けて進路を( Z )寄りに変えることが多い。

- |             |       |     |             |       |     |
|-------------|-------|-----|-------------|-------|-----|
| 1. X：太平洋    | Y：季節風 | Z：西 | 2. X：太平洋    | Y：季節風 | Z：東 |
| 3. X：太平洋    | Y：偏西風 | Z：西 | 4. X：太平洋    | Y：偏西風 | Z：東 |
| 5. X：オホーツク海 | Y：季節風 | Z：西 | 6. X：オホーツク海 | Y：季節風 | Z：東 |
| 7. X：オホーツク海 | Y：偏西風 | Z：西 | 8. X：オホーツク海 | Y：偏西風 | Z：東 |

- (イ) 図のように、部屋の気温と同じ水温の水を入れた金属製のコップに、氷水を少しずつ入れてコップの中の水温を下げていき、コップの表面がくもり始めたときの水温を調べた。実験開始時の気温と水温は  $30^{\circ}\text{C}$  であり、コップの表面がくもり始めたときの水温は  $24^{\circ}\text{C}$  であった。表は、気温と飽和水蒸気量の関係を示したものである。実験の結果と表から、あとの(i), (ii)の問いに対する答えの組み合わせとして最も適するものを1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。



表

気温 [ $^{\circ}\text{C}$ ]	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
飽和水蒸気量 [ $\text{g}/\text{m}^3$ ]	17.3	18.3	19.4	20.6	21.8	23.1	24.4	25.8	27.2	28.8	30.4

- (i) 実験開始時、実験を行った部屋の空気の湿度はおよそ何%だったと考えられるか。  
(ii) この部屋の体積は  $100\text{m}^3$  であり、部屋の空気全体の温度が  $30^{\circ}\text{C}$  から  $20^{\circ}\text{C}$  まで下がったとすると、何 g の水蒸気が水滴になると考えられるか。

1. (i) 72% (ii) 450 g                      2. (i) 72% (ii) 1310 g  
3. (i) 91% (ii) 450 g                      4. (i) 91% (ii) 1310 g

- (ウ) 図1は、地球と金星のそれぞれの公転軌道と、太陽との位置関係を模式的に示したものである。図2のア～エは、金星が図1のA～Dのいずれかの位置にあるときの、地球から天体望遠鏡で見た金星の形を、肉眼で見たときの向きに直して示したものである。金星の位置と見え方についての説明として最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

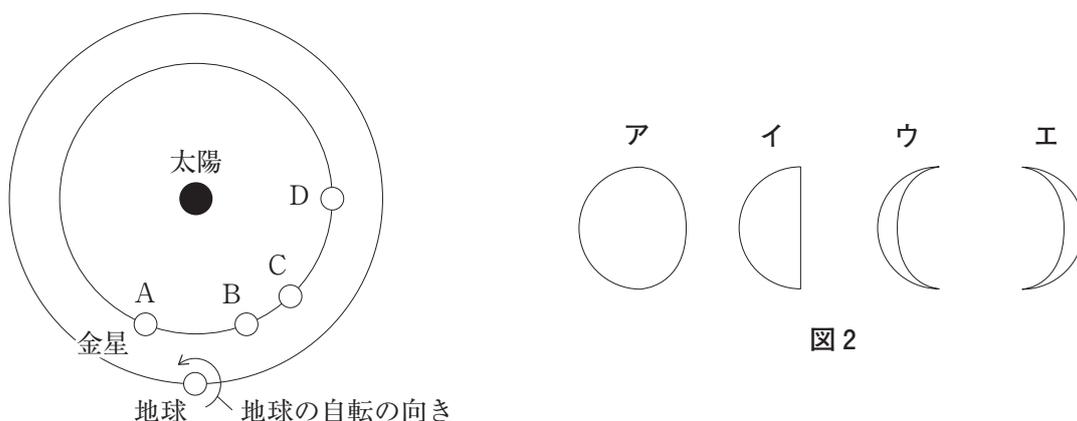


図1

1. 金星が図1のAの位置にあるとき、金星は明け方の西の空に見え、その形は図2のエである。  
2. 金星が図1のBの位置にあるとき、金星は夕方方の西の空に見え、その形は図2のアである。  
3. 金星が図1のCの位置にあるとき、金星は明け方の東の空に見え、その形は図2のイである。  
4. 金星が図1のDの位置にあるとき、金星はA～Dのうちで最も小さく見え、その形は図2のウである。



(ウ) 次の  は、[実験2]の結果についてまとめたものである。文中の（う）、（え）にあてはまるものの組み合わせとして最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- ・スクリーンと凸レンズCの距離を、凸レンズCの焦点距離よりも（う）すると、虚像が見えた。
- ・見えた虚像は、物体と上下が（え）向きであった。
- ・見えた虚像は、スクリーンに映った像よりも大きく見えた。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. う：長く え：同じ | 2. う：長く え：逆 |
| 3. う：短く え：同じ | 4. う：短く え：逆 |

(エ) Kさんは、[実験2]の内容が顕微鏡のしくみと関連していることを知り、顕微鏡のしくみについて次の  にまとめた。文中の（お）～（き）にあてはまるものの組み合わせとして最も適するものをあとの1～8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

顕微鏡は、対物レンズによって観察物より大きい実像をつくり、それを接眼レンズでさらに拡大して観察する装置である。図3は、顕微鏡の構造を模式的に示したものである。観察物、対物レンズ、実像、接眼レンズはそれぞれ、[実験2]における物体、凸レンズAやB、スクリーンに映った像、凸レンズCに相当する。

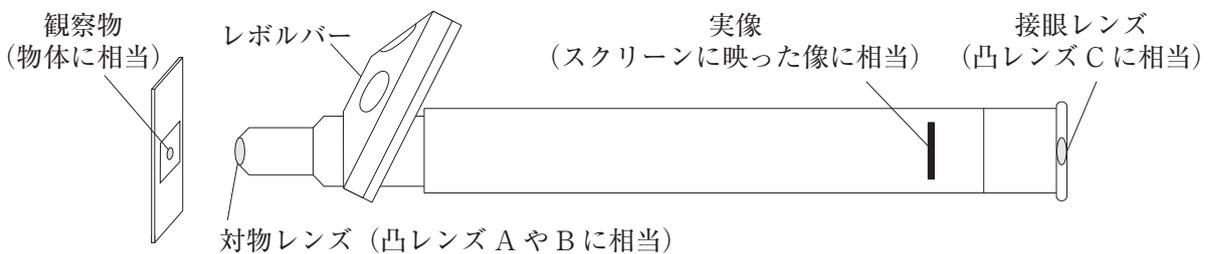


図3

対物レンズを低倍率から高倍率に変えて観察するためには、レボルバーを回してから、ピント合わせの微調整を行う。このとき、図3における観察物の位置、実像の位置、接眼レンズの位置はいずれも変わらず、観察物と対物レンズの距離だけが変わる。

このことから、高倍率と低倍率の対物レンズの違いを、対物レンズを通る光の道すじを作図して考えると、高倍率の対物レンズは低倍率の対物レンズよりも観察物から（お）ところに位置し、焦点距離は（か）ことがわかる。また、[実験1]の結果から、凸レンズAとBでは、（き）が高倍率の対物レンズに相当することがわかる。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. お：遠い か：長い き：A | 2. お：遠い か：長い き：B |
| 3. お：遠い か：短い き：A | 4. お：遠い か：短い き：B |
| 5. お：近い か：長い き：A | 6. お：近い か：長い き：B |
| 7. お：近い か：短い き：A | 8. お：近い か：短い き：B |

問6 Kさんは、金属と酸素が結びつく化学変化について調べるために、次のような実験を行った。これらの実験とその結果について、あとの各問いに答えなさい。

〔実験〕 次の①～⑥の順に操作を行った。

- ① ステンレス皿の質量を測定しておき、マグネシウムの粉末1.00gをステンレス皿に入れ、皿全体の質量を測定した。
- ② 図1のように、マグネシウムの粉末をガスバーナーで一定時間加熱し、よく冷ましてから皿全体の質量を測定した。
- ③ 皿の上のマグネシウムの粉末をかき混ぜてから、再び一定時間加熱し、よく冷ましてから皿全体の質量を測定した。この操作を、皿全体の質量が変化しなくなるまでくり返した。表は、皿全体の質量、皿の上にある加熱後の物質の質量、マグネシウム1.00gと結びついた酸素の質量を加熱の回数ごとにまとめている途中のものである。

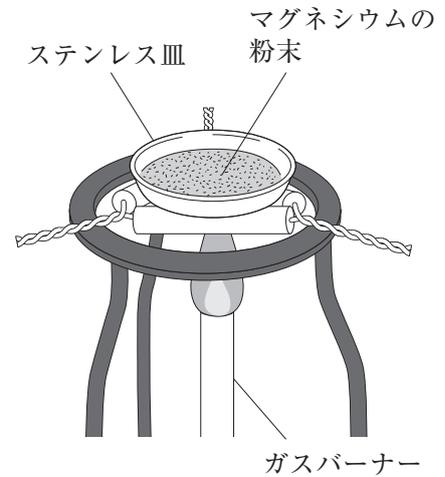


図1

表 マグネシウムの粉末の質量が1.00gのときの結果

加熱の回数〔回〕	0	1	2	3	4	5	6
皿全体の質量〔g〕	34.00	34.19	34.36	34.51	34.61	34.67	34.67
加熱後の物質の質量〔g〕	—		( X )				
結びついた酸素の質量〔g〕	—		( Y )				

- ④ マグネシウムの粉末の質量を0.20g, 0.40g, 0.60g, 0.80gと変えて①～③と同様の操作を行った。
- ⑤ マグネシウムの粉末のかわりに銅の粉末を用いて、①～④と同様の操作を行った。
- ⑥ ①～⑤の結果から、マグネシウムおよび銅の質量と、皿全体の質量が変化しなくなったときの、結びついた酸素の質量の関係を図2にまとめた。

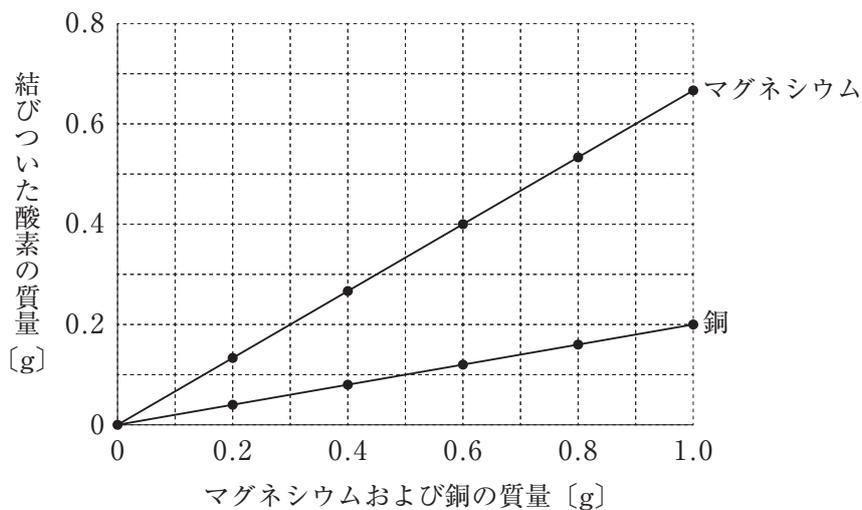


図2

(ア) マグネシウムと酸素が完全に反応して酸化マグネシウムができる化学変化を、粒子のモデルを用いて表したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。ただし、◎はマグネシウム原子を、●は酸素原子を表している。



(イ) 表中の ( X ), ( Y ) にあてはまる数値の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1. X : 0.17 Y : 0.36

2. X : 0.17 Y : 1.36

3. X : 0.36 Y : 0.36

4. X : 0.36 Y : 1.36

5. X : 1.36 Y : 0.36

6. X : 1.36 Y : 1.36

(ウ) 図2から、反応するマグネシウムと酸素の質量の比として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1. マグネシウム : 酸素 = 3 : 5

2. マグネシウム : 酸素 = 5 : 3

3. マグネシウム : 酸素 = 3 : 2

4. マグネシウム : 酸素 = 2 : 3

5. マグネシウム : 酸素 = 4 : 1

6. マグネシウム : 酸素 = 1 : 4

(エ) 次の□は、[実験]の結果についてKさんが考察したものである。文中の ( あ ) にあてはまるものとして最も適するものをあとの1～8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

文献を調べたところ、反応するマグネシウムと酸素の質量の比は、図2から得られた比と同じ比が書いてあった。一方、反応する銅と酸素の質量の比は4:1と書いてあり、図2から得られた比とずれがあった。

このずれの原因を調べるために、[実験]で用いた加熱前の銅の粉末を改めて観察したところ、全体的に黒ずんでいることに気がつき、「加熱前の銅の粉末は、保管中に一部が酸化していたため、純粋な銅と、銅原子1つと酸素原子1つが結びついてできた酸化銅の混合物になっていた」という仮説を立てた。

この仮説をもとにすると、[実験]の結果から、加熱前の銅の粉末全体の質量のうち、純粋な銅の質量の割合は ( あ ) %であったと考えられる。

1. 20

2. 30

3. 40

4. 50

5. 60

6. 70

7. 80

8. 90

問7 Kさんは、遺伝のしくみに興味をもち、アブラナのなかまである植物Aとアサガオのなかまである植物Bを種子から育て、現れた形質および形質ごとの個体数の比を記録した。これについて、あとの各問いに答えなさい。ただし、植物Aの胚軸（子葉の下にある茎のようなつくり）の色の遺伝では、エンドウの種子の形の遺伝と同じ規則性で子孫に形質が伝わるものとする。

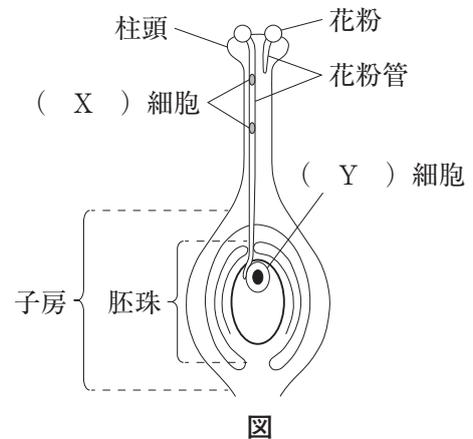
〔記録〕

- ① 植物Aの種子をまいたところ、出た芽はすべて胚軸の色が紫色の個体であった。
- ② ①でできた個体を育て、個体どうしをかけ合わせてできた種子をまいたところ、胚軸の色が紫色の個体のほかに緑色の個体ができ、形質ごとの個体数のおよその比は、紫色：緑色 = 3：1となった。
- ③ 植物Bの種子をまいて育てたところ、できた個体はすべて花卉の色が桃色の個体であった。
- ④ ③でできた個体が自家受粉してできた種子をまいて育てたところ、花卉の色が桃色の個体のほかに赤色の個体と白色の個体ができ、形質ごとの個体数のおよその比は、赤色：桃色：白色 = 1：2：1となった。

(ア) 次の□は、被子植物の有性生殖についてまとめたものである。文中の（ X ）～（ Z ）にあてはまるものの組み合わせとして最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

図は、被子植物のめしべのつくりを模式的に示したものである。花粉がめしべの柱頭につくと、花粉から花粉管がのびて、その内部を（ X ）細胞が移動していく。花粉管が胚珠に達すると、（ X ）細胞の核は胚珠内の（ Y ）細胞の核と合体し、受精卵ができる。受精卵は細胞の数をふやして胚になり、胚珠全体は種子になる。

胚の細胞1つに含まれる染色体の数は、生殖細胞1つに含まれる染色体の数（ Z ）である。



- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. X：精 Y：卵 Z：と同じ | 2. X：精 Y：卵 Z：の2倍 |
| 3. X：卵 Y：精 Z：と同じ | 4. X：卵 Y：精 Z：の2倍 |

(イ) 〔記録〕の①でできた個体について、胚軸の色の遺伝に着目して説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1. この個体は、胚軸の色が紫色の純系である。
2. この個体は、胚軸の色が紫色の純系どうしをかけ合わせてできた子である。
3. この個体は、胚軸の色が緑色の純系どうしをかけ合わせてできた子である。
4. この個体は、胚軸の色が紫色の純系と緑色の純系をかけ合わせてできた子である。

(ウ) [記録] の②でできた個体のうち、胚軸の色が紫色の個体をすべて取り除き、残った胚軸の色が緑色の個体を育て、それらの個体どうしをかけ合わせる。このときにできた種子をすべてまいて育てた場合、できる個体の胚軸の色についての説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1. 胚軸の色が紫色の個体だけができる。
2. 胚軸の色が緑色の個体だけができる。
3. 胚軸の色が紫色の個体数と緑色の個体数が、ほぼ同じになる。
4. 胚軸の色が紫色の個体数が、緑色の個体数の約3倍となる。

(エ) 次の  は、[記録] の③、④についてKさんが考察した内容をまとめたものである。文中の ( あ )、( い ) にあてはまるものとして最も適するものをそれぞれの選択肢の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

植物Bの花弁の色について、[記録] の④にある個体数の比を説明するために、エンドウの種子の形の遺伝について学習したことをいかして、次の1、2のように考えた。

- 1 植物Bの花弁の色は、花弁の色を赤色にする遺伝子Rと、白色にする遺伝子rの組み合わせ(RR, Rr, rr)によって決まる。
- 2 遺伝子Rや遺伝子rは、エンドウの種子の形の遺伝と同じように、体細胞では2つが対になっているが、減数分裂によって別々の生殖細胞に分かれて入り、受精によって再び対になる。

1、2が正しいとすると、花弁の色が桃色の個体における遺伝子の組み合わせは ( あ ) であると考えられ、植物Bの花弁の色の遺伝では、顕性形質と潜性形質の関係がはっきりせず、中間的な形質が現れると考えられる。

また、花弁の色が桃色の個体と白色の個体をかけ合わせて、できる子の形質ごとの個体数を調べると、そのおよその比は、赤色：桃色：白色 = ( い ) になると考えられる。

- (あ) の選択肢      1. RR                      2. Rr                      3. rr
- (い) の選択肢      1. 0:1:1                      2. 0:2:1                      3. 1:0:1                      4. 1:1:1

問8 Kさんは、地層について興味をもち、図1に示す地域で調査を行った。図2は、図1における各地点の水平方向の位置関係を示している。あとの□は、Kさんが調査を行ったときの記録である。これらについて、各問いに答えなさい。

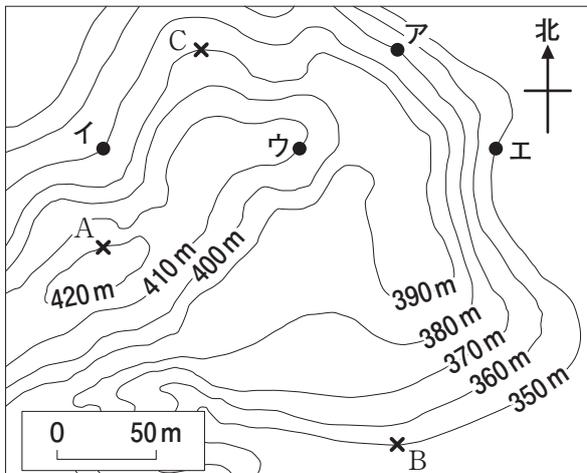


図1

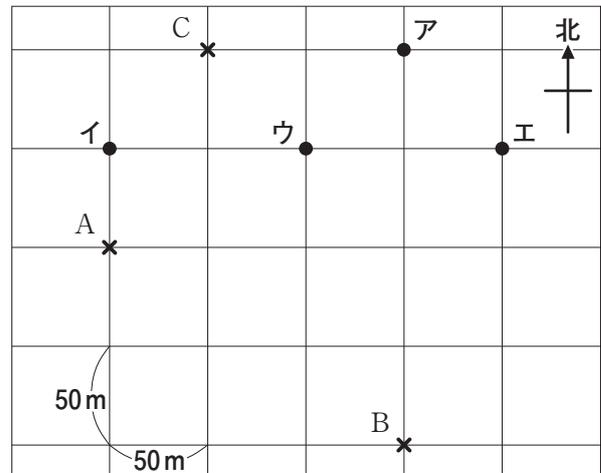


図2

〔記録〕

- ① 地点Aにあった露頭には、まだ固まっていない火山灰が見られたため、これを採取した。
- ② 地点Bでは、浅い川底で4種類の岩石を見つけ、これを採取した。
- ③ 地点Bではさらに、堆積岩の層が東西方向に水平に重なっている露頭が見られた。図3は、この露頭をスケッチしたものである。
- ④ 地点Cでも、堆積岩の層が東西方向に水平に重なっている露頭が見られた。層をつくる岩石、堆積の順番、層の厚さは図3と同じであった。

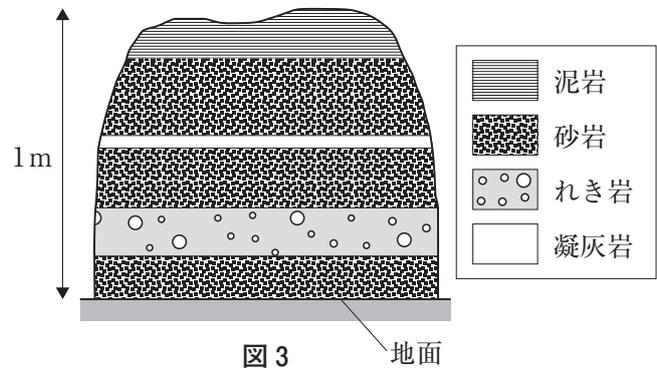


図3

(ア) 〔記録〕の①について、この火山灰に含まれる鉱物を双眼実体顕微鏡で観察するとき、事前に行う準備についての説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1. 蒸発皿に入れた火山灰に水を加えて親指の腹でよくこすり、にごった水を捨てる。この操作を、水がにごらなくなるまでくり返す。
2. 乳鉢に入れた火山灰を乳棒で細かくすりつぶした後、水を加えてよく混ぜ、にごった水を捨てる。この操作を、水がにごらなくなるまでくり返す。
3. ビーカーに入れた火山灰に水を加えてよく混ぜ、ろ紙を用いてろ過する。この操作を、水がにごらなくなるまでくり返す。
4. 蒸発皿に入れた火山灰をガスバーナーで加熱した後、水を加えてよく混ぜ、にごった水を捨てる。この操作を、水がにごらなくなるまでくり返す。

(イ) [記録] の①について、Kさんはこの火山灰を火山灰P、別の地域で採取した火山灰を火山灰Qとして、火山灰P、Qを観察した。次の          は、観察の結果から考えられることをまとめたものである。文中の ( X ), ( Y ) にあてはまるものの組み合わせとして最も適するものをあとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

火山灰P、Qを観察したところ、火山灰Pは白っぽく、火山灰Qは黒っぽかった。このことから、火山灰Pのもとになったマグマのねばりけは、火山灰Qのもとになったマグマよりも ( X ), 火山灰Pが噴出されたときの噴火のようすは、火山灰Qが噴出されたときの噴火よりも ( Y ) だったと推測される。

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1. X : 大きく Y : 爆発的 | 2. X : 大きく Y : 穏やか |
| 3. X : 小さく Y : 爆発的 | 4. X : 小さく Y : 穏やか |

(ウ) [記録] の②について、採取した4種類の岩石を先生に見てもらったところ、これらの岩石は安山岩、花こう岩、砂岩、石灰岩のいずれかであることがわかった。Kさんは、**図4**に示した手順でこれらを分類した。**図4**中の ( あ ) ~ ( う ) にあてはまる分類項目を、         中のa~dの中から選んだときの組み合わせとして最も適するものをあとの1～9の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

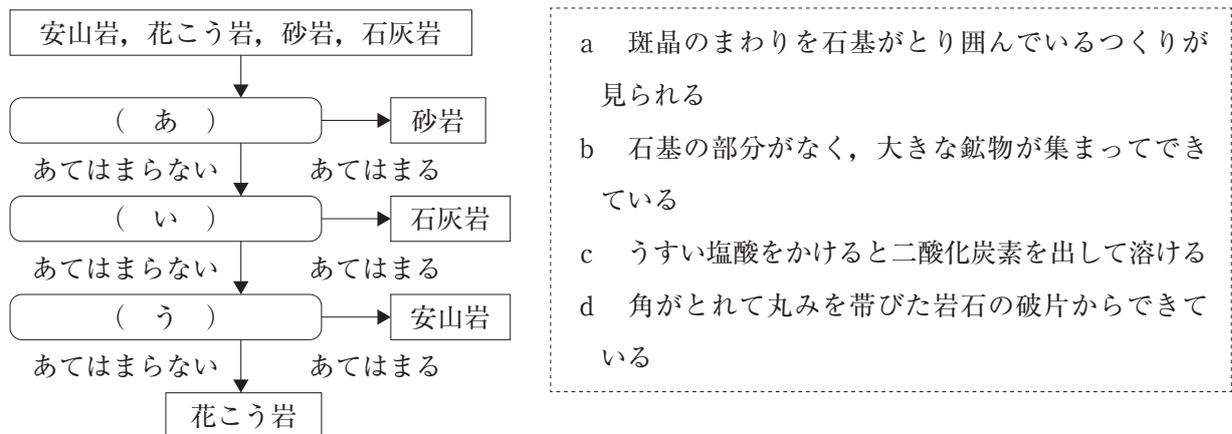


図4

- |                            |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1. あ : b    い : a    う : c | 2. あ : b    い : c    う : a | 3. あ : b    い : c    う : d |
| 4. あ : c    い : a    う : b | 5. あ : c    い : d    う : a | 6. あ : c    い : d    う : b |
| 7. あ : d    い : a    う : b | 8. あ : d    い : c    う : a | 9. あ : d    い : c    う : b |

(エ) [記録] の③と④から、Kさんは、地点BとCで見られた露頭にある各層がそれぞれ同じ層であると考え、この地域の地層の広がりについて考察した。この地域で地点BとCのほかに、**図3**と同様の露頭が見られる可能性があると考えられる地点は、**図1**のA~Eのうちどれか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。ただし、この地域の地層はある方角に向かって一定の傾きで下がっており、各層の厚さは一定であるものとする。また、断層はないものとする。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 1. A | 2. I | 3. U | 4. E |
|------|------|------|------|

(問題は、これで終わりです。)

